

**ASA 湘南鵠沼 地域密着コラボ企画****『教科の本質と学び合いを大切にした授業』**

湘南学園小学校 校長 河本 洋子

なぜ、円の面積は、半径 × 半径 × 3.14 で求めるのでしょうか。湘南学園小学校では、こうした疑問を大切に、教科の本質にとことんこだわった学習を進めています。

例えば1年生の算数では、数の概念をしっかりと身につけられるよう、タイルなどの教具を用いながら、スモールステップで学習を進めています。1年生の国語では、歌ったり身体を動かしながら言葉の響きと文字を丁寧につなげていきます。授業では、子ども同士の議論など、学び合いを通して、子どもたちがわかるようになることを目指しています。質の高い授業を行うため、英語・音楽・図工・体育などの教科については専門的に学んだ専科教諭が担当します。

**「国語」 ～様々な学習活動を通して、思考力・表現力・判断力を育てる～**

私たちは言葉を使って世界を認識し思考するとともに、コミュニケーションを図ります。言葉は人間が生活し、豊かな文化を築いていくために大きな役割を果たしています。国語の力は、認識力や思考力、想像力を育むための土台であると言えるでしょう。「話し言葉中心の世界」から「書き言葉中心の世界」へと移行する小学校入門期。本校では、その入口でつまづかないように文字指導を丁寧に行いつつ、読み聞かせや言葉あそび、詩に触れる機会を多くもち、言語力の土台となる力を耕します。そして、低学年のうちから優れた文学作品に多く触れ、集団で読み深めることを大切にしています。

「読み」で培った表現の技法を「書き」に活かすために、低学年のうちから暮らしの中で心に残ったことを丁寧に綴り、またそれらを読み合うことで物事の値打ちに気づき、深い認識を身につけていきます。「お話の世界」にとどまる読解力ではなく、実社会で活かすことのできる本物の認識力を身につけられるような国語の授業を目指しています。

**「算数」 ～なぜ？ という問いと、数や量の本質、計算の意味がわかることを大切に～**

算数では、「数量や図形の基本的な認識を身につける」「日常的な事象について見通しを持ち、論理的思考力を育てる」ことを目指しています。そのため、具体物や半具体物のタイル、図を介して操作したり、仲間と納得できるまで議論を積み重ねていく学び合いを重視しています。

「7 + 8」はどうして15になるのか、かけ算の意味とは何か、分数のわり算はどうして逆数をかけるのかなど、こういった算数の本質に迫る問いに、「なるほどそういうことか！」と子どもたち一人ひとりが納得できる答えの道筋を見つけることを大切にしています。また、「わかる」から「できる」や「活用する」ことまで伸ばしていくために、オリジナルプリントや学校独自のテキストを使って習熟を重ねています。

**「社会」 ～社会のしくみや歴史を知ることで、社会と自分との関わりを考える～**

社会科の授業は、社会生活や国土・歴史についての理解を育み、国際社会に生きる平和的で民主的な国家・社会の形成者としての資質を育てることを目指しています。

3年生では、地元の八百屋やスーパーに行きお店調べをしたり、校外学習で片瀬漁港を見学して、働く方から直接話を聞いたりします。4年生では、消防署見学、ゴミの行方を体験学習するなど、私たちの暮らしを見つめます。5年生では具体的な学習を追求します。米作りを経験し、三崎の漁港、自動車工場見学から日本の産業を考えます。6年生は奈良・京都の修学旅行をきっかけに歴史を興味深く学び、現代社会の学習につなげます。

**「理科」 ～自らの手と目を使って、自然の不思議を探求し、背景にある科学的法則を見つける～**

理科の授業では、自然を見つめ、そこに潜む法則を発見するために、結果を予測して話し合ったり、実験や観察で実際に自分の目や手を使って学ぶことを大切にしています。

中庭の「学びの森」で採取した水に生きる微生物を顕微鏡で観察したり、理科テラスで育てたジャガイモからデンプンを取るなど、子どもたちが身近な自然に目をみはり、「なるほど」と納得できる授業を目指しています。そのために、教科の系統性と発達段階に応じたカリキュラムを独自に組み替えています。